

令和元年度 原子力総合防災訓練
住民アンケート報告書

令和2年3月

内閣府（原子力防災担当）

目 次

1. 原子力総合防災訓練のアンケート実施概要.....	1
2. アンケートの目的.....	1
3. アンケート回答者の属性.....	1
3. 1 住まい.....	1
3. 2 性別.....	2
3. 3 年齢.....	2
4. アンケート結果.....	3
4. 1 アンケート結果の全体像.....	3
4. 2 設問ごとの結果.....	3
5. アンケートの分析.....	8
5. 1 アンケートについて.....	8
5. 2 アンケートの分析方法.....	8
5. 3 アンケートの選択項目の集計結果.....	8
5. 4 アンケート結果の分析及び改善提案.....	9
6. 総評.....	16

○住民アンケート設問内容

1. あなたはどの市の方ですか？

2. あなたの性別を教えてください。

3. あなたの年齢を教えてください。

問1. あなたがお住まいの地域は、PAZ、UPZまたはそれ以外のどの区分に該当するのか知っていましたか？

問2-1. あなたがお住まいの地域の原子力災害時の避難計画（バス避難する場合の一時集結所（一時集合場所）・避難経路・避難先自治体等）の内容を理解していますか？

問2-2. 鳥取県（米子市、境港市）はUPZに該当します。「鳥取県広域住民避難計画」では、30km圏全域に避難が必要になったとき、渋滞を避けるため、島根原子力発電所からの距離が近い区域から段階的に避難を行うよう計画しています。このことをご存じですか？
段階的避難は避難区域を4分割しています。ご自分がお住いの地域の段階的避難の区分をご存じですか？（鳥取県住民のみ対象）

問3-1. 原子力災害が発生し、あなたの市町に避難指示が出された場合、どのような行動をとりますか？

問3-2. 屋内退避は、放射性物質の吸入を抑制することにより被ばくの低減を図る上で必要なことです。このことをご存知ですか？（島根県住民のみ対象）

問4. 災害に備え何日分の食料・飲料等を準備していますか？

問5. 今回の訓練で原子力事故が発生した場合に自分がどのように行動すべきか手順がわかりましたか？

問6. 今回の訓練では、さまざまな広報手段により情報の発信を行いました。どのような広報手段であなたに情報が伝わりましたか？また、広報の内容は理解できましたか？

問7. 安定ヨウ素剤の配布を受けた際の説明は理解できましたか？

問8. 避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか？（職員の対応含む）

問9. 今回の訓練に参加して避難は確実に行えると感じましたか？

【自由意見】 今回の訓練、避難等全般に関するご感想、ご意見やご要望があればお聞かせください。

1. 原子力総合防災訓練のアンケート実施概要

- 実施日時：令和元年11月8日（金）、9日（土）、10日（日）
- 実施場所：避難所等
- 対象者：島根県松江市、出雲市、安来市、雲南市、鳥取県米子市、境港市の訓練参加住民
- 回答人数：874名
 <<内訳>>

松江市	496名	出雲市	93名	安来市	48名	雲南市	105名
米子市	85名	境港市	47名				

2. アンケートの目的

原子力総合防災訓練に参加した住民へのアンケートを行い、これらの結果を分析のうえ改善策を検討し、今後の訓練に役立てることを目的として実施した。

3. アンケート回答者の属性

3.1 住まい

回答者の住まいは、「島根県」が84.9%、「鳥取県」が15.1%の構成であった。

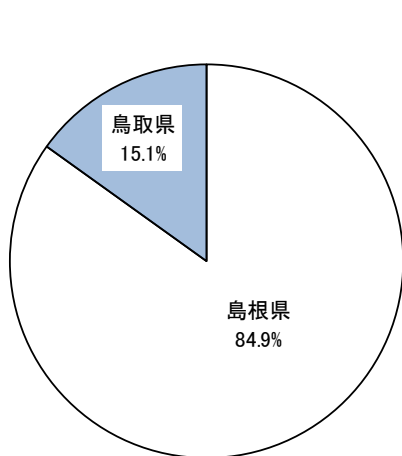


図 3-1-1 回答者の住まい（県別）

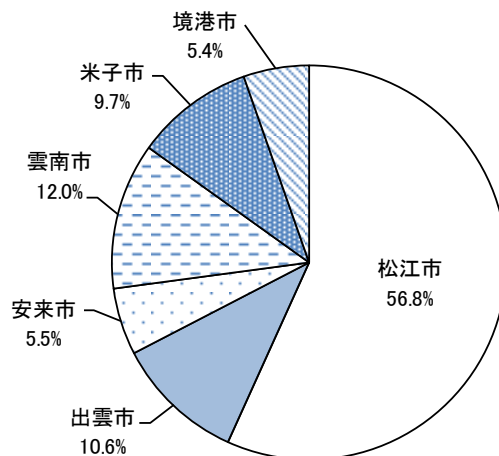


図 3-1-2 回答者の住まい（市別）

表 3-1-2 回答者の住まい（市別）

	回答数	割合
松江市	496	56.8%
出雲市	93	10.6%
安来市	48	5.5%
雲南市	105	12.0%
米子市	85	9.7%
境港市	47	5.4%
合計	874	100.0%

3. 2 性別

回答者の性別は、「男性」が71.9%、「女性」が24.0%であった。

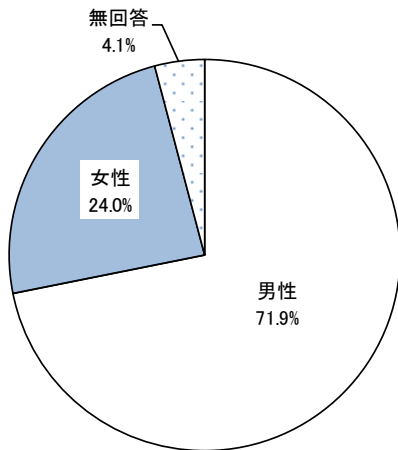


図 3-2 回答者の性別

表 3-2 回答者の性別

	回答数	割合
男性	628	71.9%
女性	210	24.0%
無回答	36	4.1%
合計	874	100.0%

3. 3 年齢

回答者の年齢は、「60代以上」が71.2%、「40～50代」が24.9%であり、40代以上が95%以上を占めた。

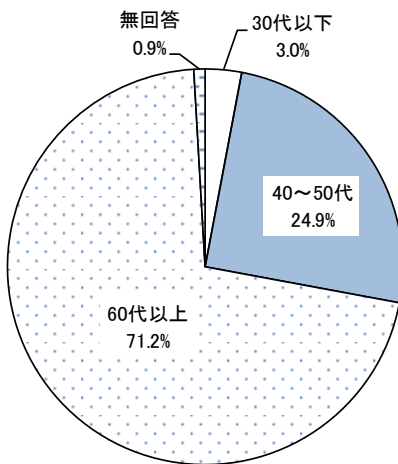


図 3-3-1 回答者の年齢

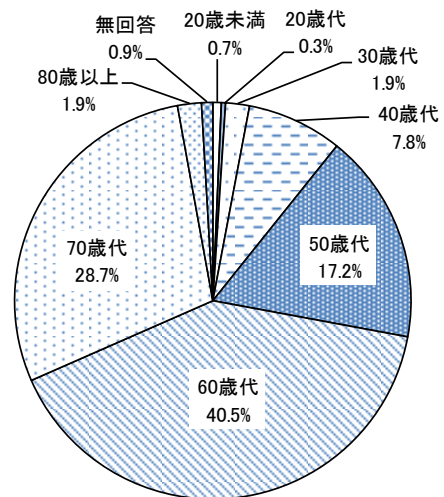


図 3-3-2 回答者の年齢(詳細)

表 3-3-2 回答者の年齢(詳細)

	回答数	割合
20歳未満	6	0.7%
20歳代	3	0.3%
30歳代	17	1.9%
40歳代	68	7.8%
50歳代	150	17.2%
60歳代	354	40.5%
70歳代	251	28.7%
80歳以上	17	1.9%
無回答	8	0.9%
合計	874	100.0%

4. アンケート結果

4. 1 アンケート結果の全体像

アンケートは、①防災に関する一般的な事項、②広報に関する事項、③避難に関する事項について質問し、原子力総合防災訓練に参加した住民874名から回答をいただいた。

アンケート結果から得た主な内容を以下に示す。

(1) 防災に関する一般的な事項

- ・居住地区のPAZ、UPZの区分を知っていた住民は約8割であった。
- ・避難計画に関しては、「概ね理解している」も含め約7割の住民が理解している。
- ・鳥取県広域住民避難計画及び段階的避難に関しては、約7割の住民が理解しているが、段階的避難の詳細についての理解度は約5割であった。(鳥取県住民)
- ・屋内退避の有効性を理解している住民は、約9割であった。(島根県住民)
- ・約5割の住民が「災害に対する備え(食料・飲料等)」をしていない。

(2) 広報に関する事項

- ・住民が情報を得た手段は、「緊急速報メール」「防災行政無線」が多数であった。
- ・広報の内容に関して、「概ね理解できた」も含め約9割の住民が理解できたとしている。

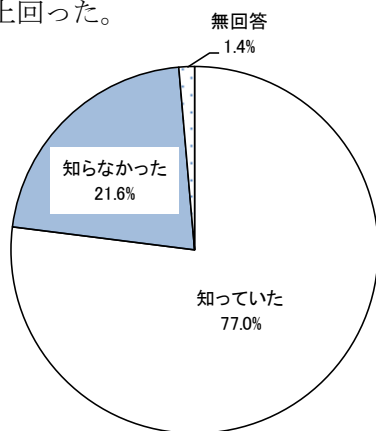
(3) 避難に関する事項

- ・避難の手順に関して、約9割の住民が今回の訓練に参加したことで理解したとしている。
- ・約8割の住民が、「何とか避難できる」も含め実災害時にも避難できると回答している。

4. 2 設問ごとの結果

問1. あなたがお住まいの地域は、PAZ、UPZまたはそれ以外のどの区分に該当するのか知っていましたか？

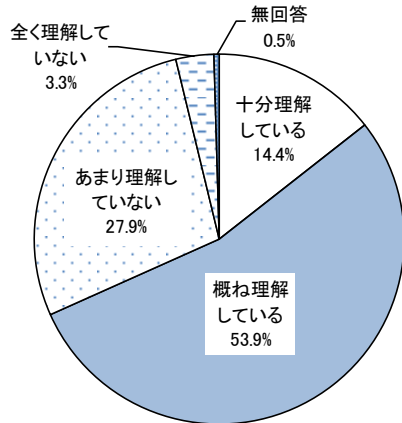
- ・「知っていた」が77.0%、「知らなかった」が21.6%であり、「知っていた」が大きく上回った。



	回答数	割合
知っていた	673	77.0%
知らなかった	189	21.6%
無回答	12	1.4%
合計	874	100.0%

問2-1. あなたがお住まいの地域の原子力災害時の避難計画（バス避難する場合の一時集結所（一時集合場所）・避難経路・避難先自治体等）の内容を理解していますか？

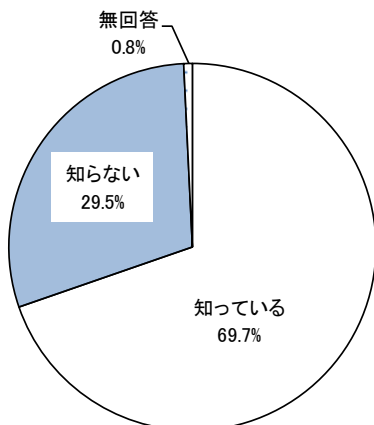
- ・「概ね理解している」が53.9%を占めて最も多く、次いで「あまり理解していない」が27.9%、「十分理解している」が14.4%、「全く理解していない」が3.3%の順であった。



	回答数	割合
十分理解している	126	14.4%
概ね理解している	471	53.9%
あまり理解していない	244	27.9%
全く理解していない	29	3.3%
無回答	4	0.5%
合計	874	100.0%

問2-2. 鳥取県（米子市、境港市）はUPZに該当します。「鳥取県広域住民避難計画」では、30km圏全域に避難が必要になったとき、渋滞を避けるため、島根原子力発電所からの距離が近い区域から段階的に避難を行うよう計画しています。このことをご存じですか？

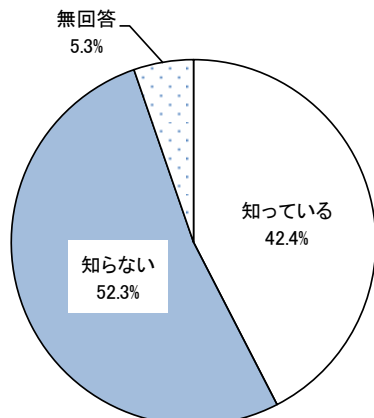
- ・「知っている」が69.7%、「知らない」が29.5%であった。



	回答数	割合
知っている	92	69.7%
知らない	39	29.5%
無回答	1	0.8%
合計	132	100.0%

段階的避難は避難区域を4分割しています※。ご自分がお住まいの地域の段階的避難の区分をご存じですか？

- ・「知らない」が52.3%、「知っている」が42.4%であった。

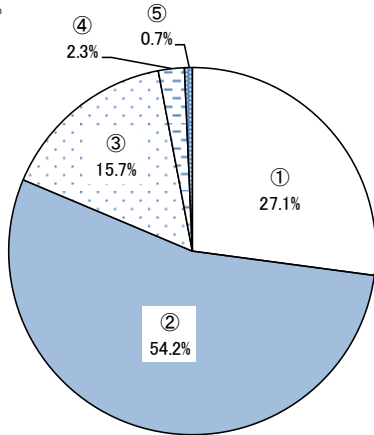


※鳥取県広域住民避難計画において、弓ヶ浜半島は、避難の一般方向が限定され、かつ使用できる道路が大きく2本に限られることから、避難を円滑に実施するために弓ヶ浜半島を4地区に区分し、島根原子力発電所から近い地域から段階的に避難することとしています。

	回答数	割合
知っている	56	42.4%
知らない	69	52.3%
無回答	7	5.3%
合計	132	100.0%

問3-1. 原子力災害が発生し、あなたの市町に避難指示が出された場合、どのような行動をとりますか？

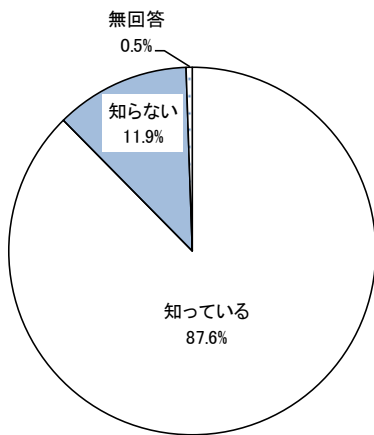
- ・「自家用車等を使用して、役所が指定する避難所まで避難」が54.2%を占めて最も多く、次いで「役所などが用意するバス等で、役所が指定する避難所まで避難」が27.1%、「自家用車等を使用して、親戚・知人宅など避難所以外の場所へ避難」が15.7%の順であった。



	回答数	割合
① 役所などが用意するバス等で、役所が指定する避難所まで避難	237	27.1%
② 自家用車等を使用して、役所が指定する避難所まで避難	474	54.2%
③ 自家用車等を使用して、親戚・知人宅など避難所以外の場所へ避難	137	15.7%
④ その他	20	2.3%
⑤ 無回答	6	0.7%
合計	874	100.0%

問3-2. 屋内退避は、放射性物質の吸入を抑制することにより被ばくの低減を図る上で必要なことです。このことをご存知ですか？

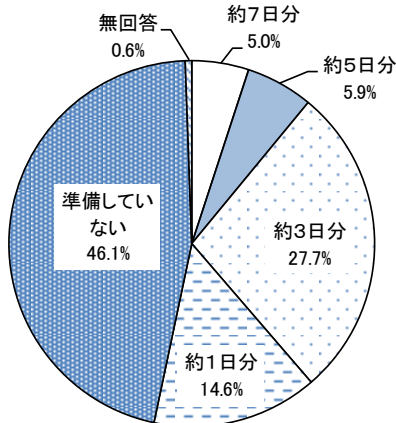
- ・「知っている」が87.6%、「知らない」が11.9%であった。



	回答数	割合
知っている	650	87.6%
知らない	88	11.9%
無回答	4	0.5%
合計	742	100.0%

問4. 災害に備え何日分の食料・飲料等を準備していますか？

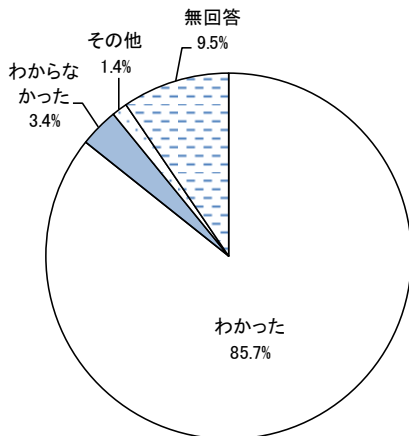
- ・「準備していない」が46.1%を占めて最も多く、次いで「約3日分」が27.7%、「約1日分」が14.6%、「約5日分」が5.9%、「約7日分」が5.0%の順であった。



	回答数	割合
約7日分	44	5.0%
約5日分	52	5.9%
約3日分	242	27.7%
約1日分	128	14.6%
準備していない	403	46.1%
無回答	5	0.6%
合計	874	100.0%

問5. 今回の訓練で原子力事故が発生した場合に自分がどのように行動すべきか手順がわかりましたか？

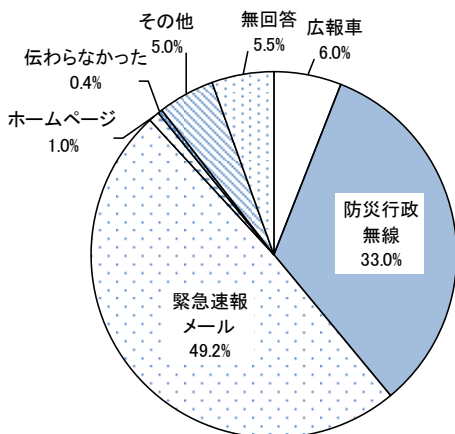
・「わかった」が85.7%、「わからなかった」が3.4%であった。



	回答数	割合
わかった	749	85.7%
わからなかった	30	3.4%
その他	12	1.4%
無回答	83	9.5%
合計	874	100.0%

問6. 今回の訓練では、さまざまな広報手段により情報の発信を行いました。どのような広報手段であなたに情報が伝わりましたか？ (複数回答可)

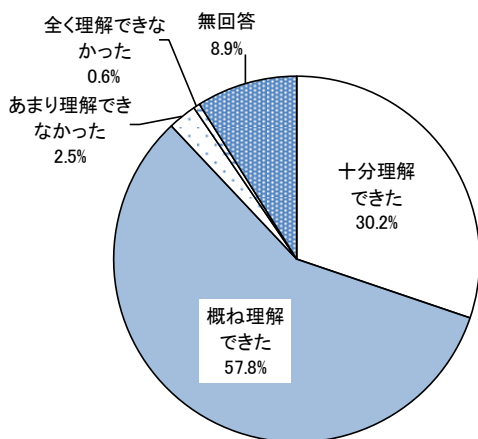
・「緊急速報メール」が49.2%を占めて最も多く、次いで「防災行政無線」が33.0%、「広報車」が6.0%の順であった。



	回答数	割合
広報車	75	6.0%
防災行政無線	415	33.0%
緊急速報メール	618	49.2%
ホームページ	12	1.0%
伝わらなかった	5	0.4%
その他	63	5.0%
無回答	69	5.5%
合計	1257	100.0%

また、広報の内容は理解できましたか？

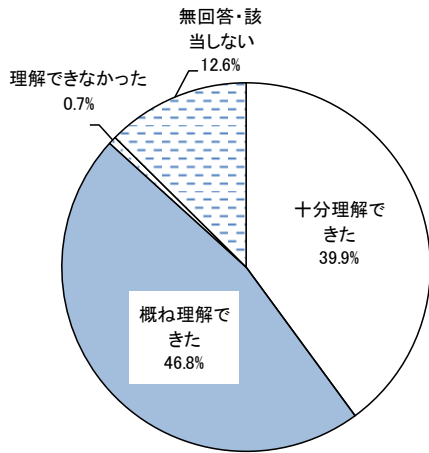
・「概ね理解できた」が57.8%を占めて最も多く、次いで「十分理解できた」が30.2%であり、肯定的な意見が約8割を超える結果であった。



	回答数	割合
十分理解できた	264	30.2%
概ね理解できた	505	57.8%
あまり理解できなかった	22	2.5%
全く理解できなかった	5	0.6%
無回答	78	8.9%
合計	874	100.0%

問7. 安定ヨウ素剤の配布を受けた際の説明は理解できましたか？

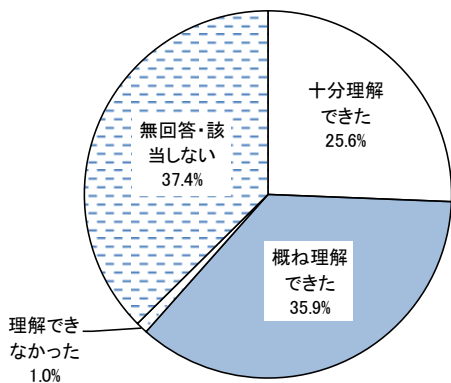
- ・「概ね理解できた」が46.8%を占めて最も多く、次いで「十分理解できた」が39.9%であり、肯定的な意見が約8割を超える結果であった。



	回答数	割合
十分理解できた	349	39.9%
概ね理解できた	409	46.8%
理解できなかった	6	0.7%
無回答・該当しない	110	12.6%
合計	874	100.0%

問8. 避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか？（職員の対応含む）

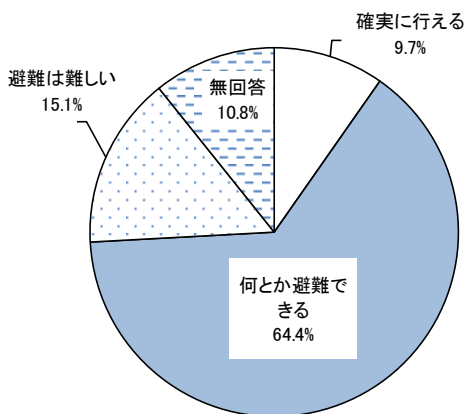
- ・「概ね理解できた」が35.9%を占めて最も多く、次いで「十分理解できた」が25.6%であり、肯定的な意見が約6割を超える結果であった。



	回答数	割合
十分理解できた	224	25.6%
概ね理解できた	314	35.9%
理解できなかった	9	1.0%
無回答・該当しない	327	37.4%
合計	874	100.0%

問9. 今回の訓練に参加して避難は確実にできると感じましたか？

- ・「何とか避難できる」が64.4%を占めて最も多く、次いで「避難は難しい」が15.1%、「確実にできる」が9.7%の順であった。肯定的な意見が約7割を超える結果であった。



	回答数	割合
確実にできる	85	9.7%
何とか避難できる	563	64.4%
避難は難しい	132	15.1%
無回答	94	10.8%
合計	874	100.0%

5. アンケートの分析

5. 1 アンケートについて

アンケートは、項目毎に達成度を選択肢から選択する方式とし、否定的な回答に対してはその理由を記載することとした。アンケートの選択肢は、肯定側に「十分」と「概ね」、否定側に「あまり」と「全く」とした。

また、自由意見記載欄を設け、訓練に対する回答者の意見、感想等を収集した。

5. 2 アンケートの分析方法

(1) 選択式の設問については集計結果をもとに分析した。

アンケート結果を肯定側（「十分」＋「概ね」）、否定側（「あまり」＋「全く」）に分類し、否定的な回答割合が10%を超える項目は、「改善の必要有り」として分析を行った。なお、この数値に統計的根拠はないが、十分に高い目標値であると考えられる。

(2) 自由意見については、意見の内容に基づき分類、集約して分析した。

5. 3 アンケートの選択項目の集計結果

アンケートの選択項目の集計結果をまとめたものを表5に示す。否定的な回答割合が10%以上のものについて、強調表示とした。

表5 アンケート集計結果まとめ

No.	設問	回答割合	
		肯定的	否定的
1	(1) PAZ・UPZ区域 あなたがお住まいの地域は、PAZ、UPZまたはそれ以外のどの区分に該当するのか知っていましたか？	77.0%	21.6%
2-1	(2) 避難計画 あなたがお住まいの地域の原子力災害時における避難計画（バス避難する場合の一時集結所（一時集合場所）・避難経路・避難先自治体等）の内容を理解していますか？	68.3%	31.2%
2-2	(3) 広域避難計画・段階的避難 鳥取県（米子市、境港市）はUPZに該当します。「鳥取県広域住民避難計画」では、30km圏全域に避難が必要になったとき、渋滞を避けるため、島根原子力発電所からの距離が近い区域から段階的に避難を行うよう計画しています。このことをご存じですか？	69.7%	29.5%
	(3) 広域避難計画・段階的避難 段階的避難は避難区域を4分割しています。ご自分がお住いの地域の段階的避難の区分をご存じですか？	42.4%	52.3%
3-1	原子力災害が発生し、あなたの市町に避難指示が出された場合、どのような行動をとりますか？	—	—
3-2	(4) 屋内退避の有効性 屋内退避は、放射性物質の吸入を抑制することにより被ばくの低減を図る上で必要なことです。このことをご存知ですか？	87.6%	11.9%
4	災害に備え何日分の食料・飲料等を準備していますか？	—	—
5	今回の訓練で原子力事故が発生した場合に自分がどのように行動すべきか手順がわかりましたか？	85.7%	3.4%
6	今回の訓練では、さまざまな広報手段により情報の発信を行いました。どのような広報手段であなたに情報が伝わりましたか？（複数回答可）	—	—
	また、広報の内容は理解できましたか？	88.0%	3.1%
7	安定ヨウ素剤の配布を受けた際の説明は理解できましたか？	86.7%	0.7%
8	避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか？（職員の対応含む）	61.6%	1.0%
9	(5) 有事の際の対応 今回の訓練に参加して避難は確実にできると感じましたか？	74.1%	15.1%

5. 4 アンケート結果の分析及び改善提案

5. 4. 1 否定的な回答割合が10%を超える以下の3項目についての分析結果

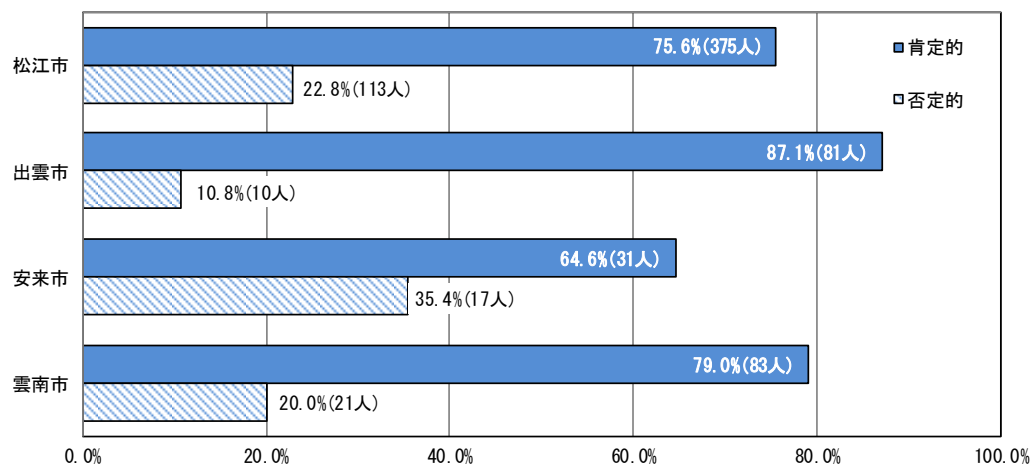
(1) P A Z ・ U P Z 区域

あなたがお住まいの地域は、P A Z、U P Z またはそれ以外のどの区分に該当するのか知っていましたか？

自治体別の肯定的、否定的回答割合を図5-1に示す。

島根県安来市及び鳥取県境港市で否定的回答の割合が約3割を超えており、高い傾向となっている。

【島根県】



【鳥取県】

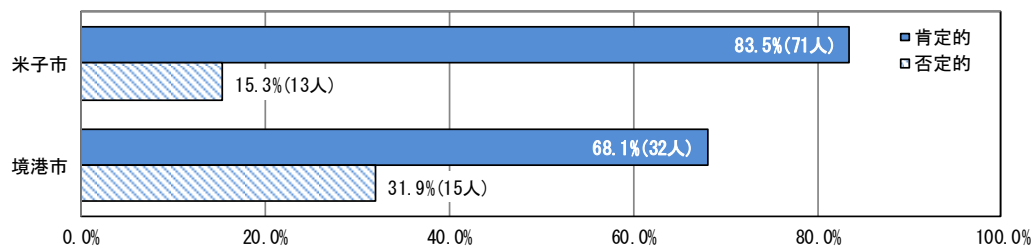


図5-1 自治体別の肯定的、否定的回答割合

本設問については、自由記述がなく分析ができないため、結果のみの記載とする。

上記の結果から考察した課題及び改善策を表5-1に示す。

表5-1 P A Z ・ U P Z 区域に関する課題及び改善策

No.	課題	改善策
1	P A Z ・ U P Z 区域を知らない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動による住民への周知 様々な広報手段（資料配布、HP等）により、広く住民へ周知していくことを推奨する。 ・ 説明会の開催 住民に理解していただくために、市町や地区毎に説明会を実施することを推奨する。

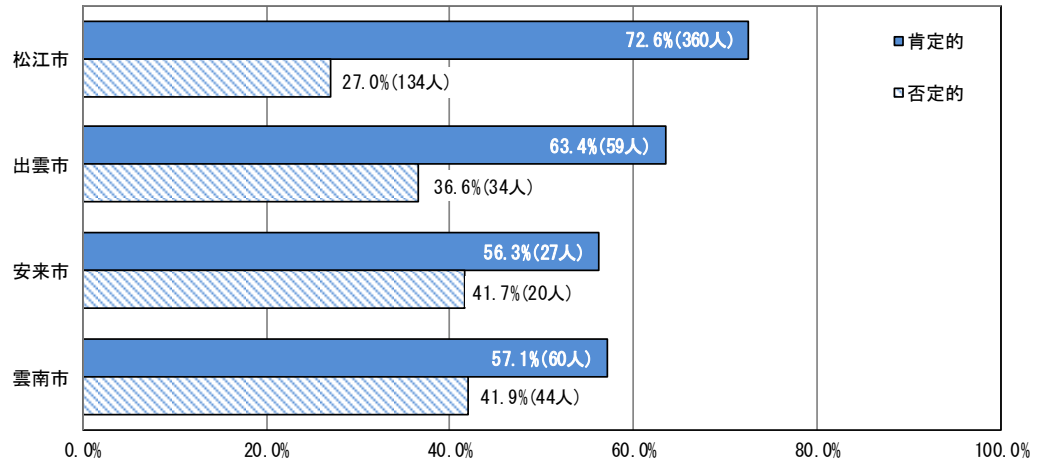
(2) 避難計画（島根県、鳥取県共通）

あなたがお住まいの地域の原子力災害時の避難計画（バス避難する場合の一時集結所（一時集合場所）・避難経路・避難先自治体等）の内容を理解していますか？

自治体別の肯定的、否定的回答割合を図5-2に示す。

島根県安来市及び雲南市で否定的回答の割合が約4割を超えており、高い傾向となっている。

【島根県】



【鳥取県】

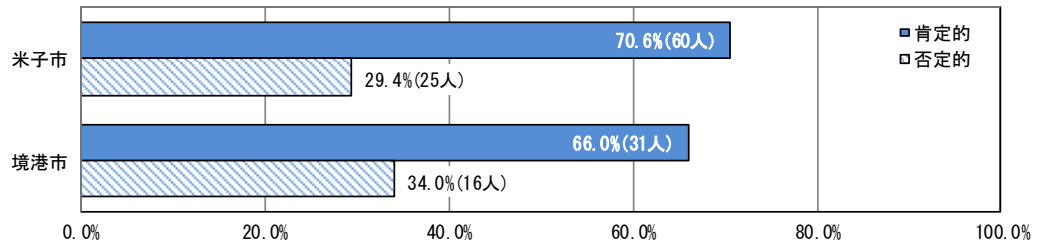


図5-2 自治体別の肯定的、否定的回答割合

本設問については、自由記述がなく分析ができないため、結果のみの記載とする。

上記の結果から考察した課題及び改善策を表5-2に示す。

表5-2 避難計画に関する課題及び改善策

No.	課題	改善策
1	各市町の避難計画を知らない	<ul style="list-style-type: none"> • 広報活動による住民への周知 様々な広報手段（資料配布、HP等）により、広く住民へ周知していくことを推奨する。 • 説明会の開催 住民に理解していただくために、市町や地区毎に説明会を実施することを推奨する。

(3) 広域避難計画・段階的避難（鳥取県）

①鳥取県（米子市、境港市）はUPZに該当します。「鳥取県広域住民避難計画」では、30 km圏全域に避難が必要になったとき、渋滞を避けるため、島根原子力発電所からの距離が近い区域から段階的に避難を行うよう計画しています。このことをご存じですか？

自治体別の肯定的、否定的回答割合を図5-3-1に示す。
鳥取県境港市で否定的回答の割合が高い傾向となっている。

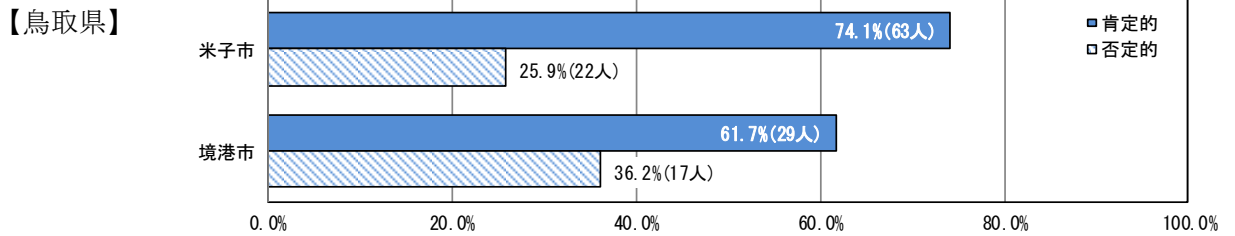


図5-3-1 自治体別の肯定的、否定的回答割合

②段階的避難は避難区域を4分割しています。ご自分がお住いの地域の段階的避難の区分をご存じですか？

自治体別の肯定的、否定的回答割合を図5-3-2に示す。
鳥取県米子市、境港市ともに否定的回答の割合が高い傾向となっている。

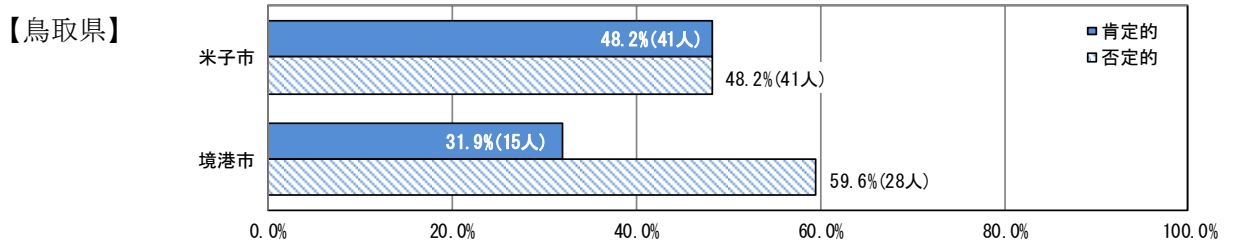


図5-3-2 自治体別の肯定的、否定的回答割合

本設問については、自由記述がなく分析ができないため、結果のみの記載とする。
上記の結果から考察した課題及び改善策を表5-3に示す。

表5-3 広域避難計画・段階的避難に関する課題及び改善策

No.	課題	改善策
1	広域避難計画を知らない 段階的避難を知らない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動による住民への周知 様々な広報手段（資料配布、HP等）により、広く住民へ周知していくことを推奨する。 ・ 説明会の開催 住民に理解していただくために、市町や地区毎に説明会を実施することを推奨する。

(4) 屋内退避の有効性（島根県）

屋内退避は、放射性物質の吸入を抑制することにより被ばくの低減を図る上で必要なことです。このことをご存知ですか？

自治体別の肯定的、否定的回答割合を図5-4に示す。

島根県安来市及び雲南市で否定的回答の割合が高い傾向となっている。

【島根県】

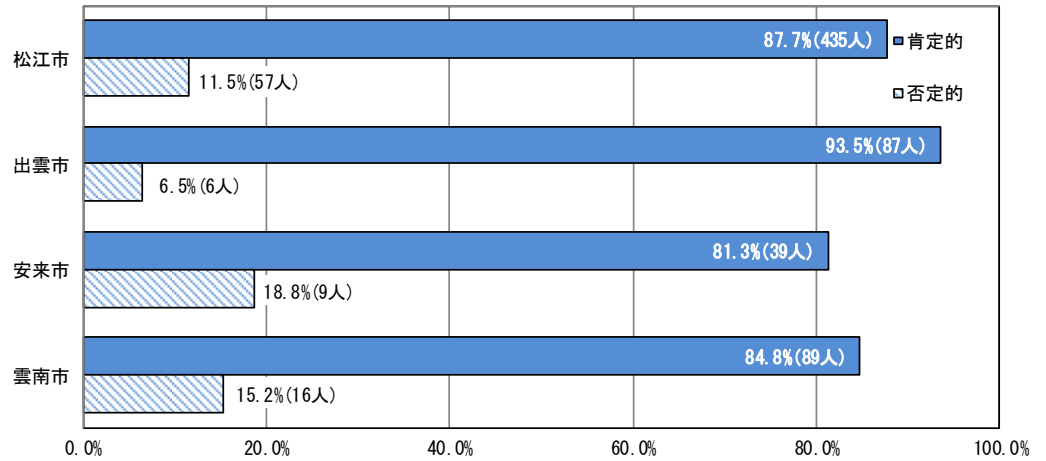


図5-4 自治体別の肯定的、否定的回答割合

本設問については、自由記述がなく分析ができないため、結果のみの記載とする。

上記の結果から考察した課題及び改善策を表5-2に示す。

表5-4 屋内退避の有効性に関する課題及び改善策

No.	課題	改善策
1	屋内退避の有効性を知らない	<ul style="list-style-type: none"> • 広報活動による住民への周知 様々な広報手段（資料配布、HP等）により、広く住民へ周知していくことを推奨する。 • 説明会の開催 住民に理解していただくために、市町や地区毎に説明会を実施することを推奨する。

(5) 有事の際の対応

今回の訓練に参加して避難は確実にできると感じましたか？

自治体別の肯定的、否定的回答割合を図5-5に示す。
島根県松江市、出雲市及び雲南市で否定的回答の割合が高い傾向となっている。

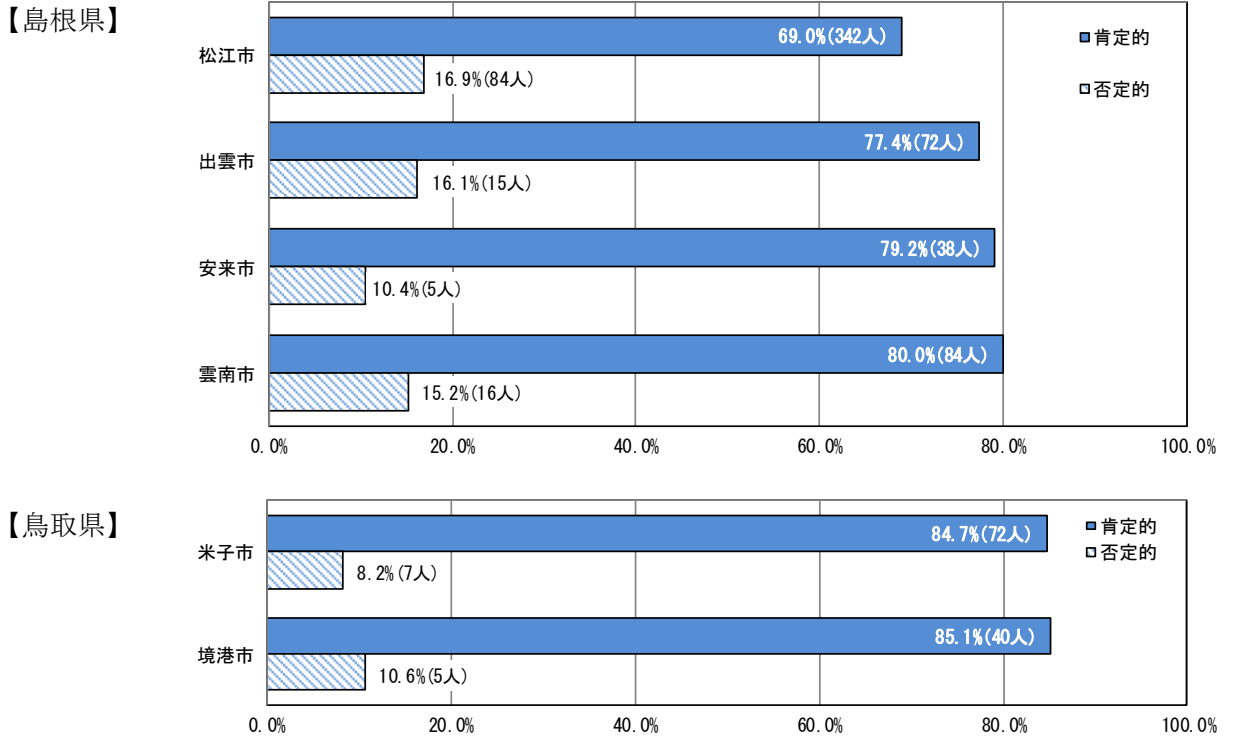


図5-5 自治体別の肯定的、否定的回答割合

否定的意見（「避難は難しい」）の主な理由を以下に示す。

〈避難ルート・避難手段〉

- ・道路が渋滞する。バスの確保が困難と思う。(松江市)
- ・多くの自家用車での避難が予想され、渋滞が起きるのでは？(松江市)
- ・災害が発生した場合、避難ルートの確保が困難。(松江市)
- ・避難用バスと自家用車で避難する人々との交通混雑が想定を超えスムーズに進行できるのか？(出雲市)
- ・避難にバス等の利用は難しいのでは？(米子市)
- ・道路混雑により実際にバス等が来るのか？(境港市)

〈要配慮者の避難〉

- ・家族に要配慮者がいるので、団体行動は難しいと思う。(松江市)
- ・高齢者世帯、認知症等の場合、どうしたらいいのか？(出雲市)
- ・高齢者がいるので実際は自宅に居るようになると考えている。(雲南市)

〈避難時の行動〉

- ・避難先までたどり着けるか心配。(松江市)
- ・長時間のバス移動に不安を感じました。(松江市)
- ・避難場所へ自家用車で行く場合、場所が分からずウロウロするのでは？(出雲市)
- ・冷静に判断ができるか？(安来市)

これらの否定的な意見から考察した課題及び改善策を表5-5に示す。

表5-5 有事の際の対応に関する課題及び改善策

No.	課題	改善策
1	避難ルート・避難手段 要配慮者の避難 避難時の行動	<ul style="list-style-type: none">・ 定期的な住民広報の実施 住民に理解していただくために、原子力防災に関する定期的な住民広報の実施を推奨する。・ 避難訓練の継続実施 有事の際に対応できるように、継続的に避難訓練を実施し、避難計画の有効性の検証、住民及び職員の対応力の向上を図ることを推奨する。

5. 4. 2 アンケート結果全体を踏まえた分析及び改善提案

(1) 訓練参加者

①訓練参加者の約7割が60代以上であり、約7割が男性であった。今後は、若年層及び女性が積極的に参加できるような取組が必要であると考えられる。

(2) 防災に関する事項

①訓練参加者の約8割が、自身が居住している地域がPAZ又はUPZのどの区分に該当しているのかを把握しており、これまでの広報活動や定期的な説明会の成果と考える。引き続き、住民の理解を広げていく活動の実施を推奨する。

②約7割の住民は、原子力災害時における避難計画を理解していると回答しているものの、約3割の住民は、原子力災害時における避難計画を「全く」又は「あまり」理解していないと回答した。避難計画について、住民に対する継続的な広報活動や説明会を実施することが必要であると考えられる。

③約7割の鳥取県住民は、鳥取県広域住民避難計画における段階的避難を知っていると回答しているものの、段階的避難が避難区域を4分割していることを知らない住民は約5割であった。鳥取県広域住民避難計画の詳細について、住民に対する継続的な広報活動や説明会を実施することが必要であると考えられる。

④屋内退避の有効性について、約9割の島根県住民が知っており、これまでの広報活動や定期的な説明会の成果と考える。引き続き、住民の理解を広げていく活動の実施を推奨する。

⑤災害への備えとして食料・飲料等を準備している住民と準備していない住民は半々であり、今後、食料・飲料等の備蓄を推奨する取組が必要であると考えられる。

(3) 広報に関する事項

①8割を超える住民が、「緊急速報メール」と「防災行政無線」で訓練情報を受けたと回答した。鳥取県においては「原子力防災アプリ」を既に活用しており、今後は、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末が一般的に普及していることから、こうした情報通信技術（ICT）を活用した避難に関する情報提供をより積極的に実施していく必要があると考えられる。

(4) 避難に関する事項

①原子力事故が発生した場合に自分がどのように行動すべきかについては、約9割の住民が、今回の訓練で手順が理解できたと肯定的に回答しており、訓練に一定の効果があつたと考えられる。

②有事の際には避難ができるかについては、今回の訓練を通して、約7割の住民ができると肯定的に回答しており、避難訓練は一定の効果があつたと考える。一方で、約1割を超える住民は避難が難しいと回答していることから、引き続き避難訓練などを通して、課題の改善を図っていく必要があると考える。

③自由意見において、避難訓練に参加した住民からは「避難経路が分かっただけでも十分」「避難する際の順序等理解できてよかった」「訓練をしたことで安心感をもつことができた」などの肯定的意見が多数を占めたが、以下のように避難に対する不安の意見も挙げられており、住民の意見も踏まえた改善を進めることが重要である。

a. 「自家用車での避難が予想され、渋滞が起きるのでは」「避難ルートの確保が困難」「実際に避難車両（バス）等が来るのか」等、避難ルート・避難手段に関する意見が挙げられており、原子力防災に関する住民向けの広報や説明会等を実施し、避難計画を理解していただく必要があると考えられる。また、自家用車による避難の円滑化に向けた改善も必要と考えられる。

b. 「家族に要配慮者がいるので、団体行動は難しい」「高齢者世帯、認知症等の場合、どうしたらいいのか」等、要配慮者避難に係る意見が挙げられており、継続的な訓練を実施し、住民の理解や職員の対応能力を向上していく必要があると考えられる。

c. 「避難場所へ自家用車で行く場合、場所が分からずウロウロするのでは」「冷静に判断ができるか」等、避難時の行動に係る意見が挙げられており、継続的な訓練を実施し、住民の理解や職員の対応能力を向上していく必要があると考えられる。

6. 総評

住民アンケート結果を分析すると、今回の訓練は、全体的に良好であったと思われる。

しかし、良好な中でも、「避難計画を知らない」、「食料・飲料等の備蓄を行っていない」などの、課題も明確となった。また、避難ルート、避難手段、要配慮者の避難、避難時の行動等、避難に関する不安を挙げる意見もみられた。

本訓練で明確となった課題や意見は、緊急時対応の策定や訓練方法の継続的改善を図るための要素であり、5.4で提示した改善提案等を参考に、今後の防災対応等の更なる充実・強化を推奨する。